

第10回 学校再編検討会

議事概要

日時:令和3年10月20日(水)
場所:市役所3階 第1会議室
15:48~16:35

・当初の計画では本日学校再編計画のたたき台の検討を行う予定であったが、市長部局との意見交換を11月に実施予定のため、予定を変更し通学区の見直しと小中一貫制度のふり返しを行うこととしたい旨事務局より説明。
⇒各委員同意。

1 協議事項

(1) 通学区の見直し

事務局より通学区に関する区長聞き取り結果を説明。

- ・答申で通学区の見直しが必要とされた6区の内5区の区長から聞き取りを行った。1区1通学区を希望する区は2区、現状同様1区複数学区を容認する区が2区、制度上複数学区となっているが、実際に通学している学校が1校のみとなっている区が1区。1通学区を希望する区は育成会やPTA活動の実施が困難になっていることを理由にあげている。また、複数学区を容認すると回答した区は、現状に順応しているため変更する方が難しい、コロナ禍のため活動ができておらず、課題等分らないとの回答だった。
- ・予想していたとおり区長の皆さんの間でも意見が分かれた。個人的には1区1通学区の方がスムーズだと思う。
- ・一つ一つの意見をみると何か解決策があるように感じた。ある程度合理的に学区割りを考えても良いのではないかと。
- ・芦原中学校の近くに統合校ができることをイメージすれば、現在小諸東中学校に進学している子どもの多い赤坂区なども考えが変わる可能性もある。
- ・統合校がどこに創設されるかによっても意見は変わるってくるが、現在の区の実情を踏まえて区長の皆さんからいただいた意見は貴重。
- ・区長の皆さんは坂の上小と野岸小の距離の近さに着目して意見を出されたのではないかと感じた。統合校が2小学校から離れた位置に創設されることになれば、意見も変わってくると私も思う。

- ・荒町区は、区の中で会という組織に分かれて通学区等が分かれている。通学区の見直しを理由に既にある組織体制を変えることは難しいと思う。聞いたところによると、会は保護者世代から既に根付いており、大人同士の結びつきにも影響を与えている。

- ・少子化の影響で会の活動にも影響が出てくることも見込まれる。もしかしたら区長さんの耳に入っていないだけで、会で活動している保護者の中には負担に感じている人もいるのではないか。

- ・現在の坂の上小、野岸小の位置関係を考えると、八幡町区と荒町区の通学先は分かれていた方がそれぞれの学校までの通学距離が短くなるので納得できる。ただ、先ほども出されていたように統合校が市の西部に位置するとなれば、どちらの区も野岸小学校が最寄りの小学校となるので、必然的に1区1通学区に集約されるようにも感じる。

⇒校地検討委員会で統合校の位置を協議する際に最終的な各区の通学先の小学校を決定する。

(2) 小中一貫教育制度のふり返り

事務局より資料「義務教育学校と小中一貫型小学校・中学校」を元に説明。

- ・義務教育学校、小中一貫型小学校・中学校は組織体制に違いがある。義務教育学校は校長が1人で組織を統括しており、所属する先生は小学校教諭と中学校教諭両方の教員免許の取得が必要になる。小中一貫型小学校・中学校の場合はそれぞれ組織が分かれているため、校長は小学校と中学校にそれぞれ1人配置される。所属する先生は小中どちらかの教員免許を取得していればよい。また、学年の分け方だが、義務教育学校は6・3制以外にも分けることができるが、小中一貫型小学校・中学校は6・3制のみとなる。

- ・現実問題として、数年の間の児童生徒数の減少を加味したとしても、芦原中学校の校舎を小中学生あわせて千人規模の学校に建て替えることは難しいと思う。現在の芦原中学校にできるだけ近い場所に統合校を建設し各校で連携していく方が現実的であるため、小学校と中学校の施設は一体ではないが、連携していくこととしてきたが、現段階で方針の変更はあるか。

- ・特に変更する必要はないと個人的には考えている。特に学校の現状も変化していないように思う。

- ・これまでの議論の内容を変更する必要はないと考えている。検討会で協議していた小中連携の形も広義で捉えれば小中一貫教育の一環と言えるかと思う。なので、文部科学省の文言定義をそのまま使えば、統合校は小中一貫型の学校を目指すとも言えるのではないか。残す検討事項は、施設一体型、施設隣接型、施設分離型のいずれの形態をとるかだと思う。

- ・施設隣接型は、どの程度距離があると当てはまるのかイメージがつかめない。

- ・例えば千曲小学校と千曲保育園の施設間の距離が施設隣接型の距離感になる。
- ・校地選定委員会には、あらかじめ各形態の説明をしておく必要があるのではないか。校地選定の条件としてできるだけ芦原中学校に近い立地であることを検討会で挙げているので、校地選定委員会には、施設隣接型の形態をとれる場所の有無から検討を始めてもらうことになるように思うがいかがか。
- ・統合校の校舎完成時点では、芦原中学校区の児童生徒数は千人規模になってしまう。施設一体型は難しいように思う。
- ・ごく小規模な小学校と中学校とであれば施設一体型も考えられると思うが、芦原中学校区の児童生徒数の規模では現実的ではないと思う。体育館やグラウンドの利用を考えても授業時間の調整が難しい。近隣では校舎を一体にしても、体育施設は小学生用と中学生用の2つ建設した事例もある。
- ・統合段階で少子化が顕著であれば施設一体型も考慮すべきだが、現段階ではそこまで差し迫った状況ではない。
- ・芦原中学校区の小学校と中学校とで全く連携していないわけではない。中学校の教員が小学校に出向き授業を行う取り組みも実施しているが、小学校3校に出向かなくてはならないため、どうしても1校あたり年に1回程度が限度になってしまっている。今回の学校再編で小学校が1校となれば、スケジュール調整の点を考えても円滑に連携を進めることができるし、頻度を上げることも容易になるのではないか。現状よりも高いレベルで連携ができると思う。

(3) その他

次回市長部局との意見交換会を実施する。

⇒日時調整の上事務局から連絡する。